

景観インデックスによる都市景観研究

～理想とする景観まちづくりを考える～

小杉 雅之*

2005年8月

要旨

都市景観は様々なとらえ方や評価をされること等から、理想とする都市景観、良好な都市景観とはどのようなものであるかを、一言で説明することは難しい。一方、京都、倉敷など、数多くの人々を魅了している都市景観があることも確かである。

本稿は、良好な景観とは、安心できる空間、文化的な空間、調和のとれた空間を同時に実現している空間であると考え、良好な都市景観を構成する要素・要因を、安心インデックス・文化インデックス・調和インデックスとして分類・整理するとともに、理想的な景観整備を通じたまちづくり(=景観まちづくり)にむけ、インデックスの活用を提示したものである。まず、良好な都市景観を構成する要素を仮定し、安心・文化・調和の概念毎に分類した。そして、各要素が、良好な景観と考えられる景観大賞受賞地区等20地区において、どの程度該当しているかを検証する方法によりインデックスとしての適格性を検証し、その結果を踏まえ、良好な都市景観の構成要素について以下の安心・文化・調和のインデックスとして示した。

・安心インデックス(7項目)

見晴らしが良い、休憩場所を有する、電柱・看板等の抑制、通過車両からの安全性、生活車両からの安全性、歩車分離の徹底、死角が少ない

・文化インデックス(8項目)

地域ビジョン形成、地域シンボル整備、地場産業・伝統産業保全、自然眺望良好、自然とのふれあい、歴史的建築物維持、シークエンス、コミュニティ形成

・調和インデックス(6項目)

街並み連続感、街並み統一感、施設の一体感、敷地利用方法、地域デザイン優先、路面舗装実施

また、インデックスの検証の過程において、景観大賞受賞地区等(=研究対象地区)の多くは、アメニティな空間であることも再確認された。

今次景観インデックスは、数ある景観のなかの都市景観、さらに限られた街並みを対象に検討したものであることなどから、すべての景観を説明できるものではない。しかし、インデックスを活用して、地域の具体的な強み(特性)や弱み(課題)を都市景観の側面から明らかにすること(景観診断等)ができることから、今後のまちづくりの手助けにもなるものと考えられる。

「良好な景観は国民共通の資産である(景観法の基本理念)」ことは勿論だが、景観まちづくりは地域ブランドを創出するような魅力あるまちづくりの手法として、地域活性化に寄与できるものと考えられる。良好な景観まちづくりを行うことにより、地域への定住や地域間交流人口の増加、それらによる経済効果等が発揮されることを期待してやまない。

Keywords: 都市景観、インデックス、安心、文化、調和、アメニティ

*日本政策投資銀行地域政策研究センター 副主任研究員 (makosug@dbj.go.jp)

**本研究に際しては、東京大学先端科学技術研究センター大西隆教授をはじめ、文化的景観まちづくり研究会(P4参照)に参加頂いた方から、ご指導を頂きました。心から感謝を申し上げます。もちろん、あり得べき誤りは全て筆者の責任である。